

寅さん歩 その 26

東京の主要道路の起点～終点

桜田通りー 2



平野 武宏

道路名の標識・経路案内標識や標識の数字・その形に興味を持った寅次郎、東京の主要道路を起点から終点まで道路標識を頼りに歩いて、各交差点で交差する道路を学びたいと思い、2021年10月から「不忍通り」、「白山通り」、「春日通り」、「明治通り」、「昭和通り」、「平成通り（番外編）」、「靖国通り（元 大正通り）」、「内堀通り」、「目白通り」、「目黒通り」、「本郷通り」、「世田谷通り」、「江戸通り」、「外堀通り」、「山手通り」、「環二通り」、「外苑東通り」、「外苑西通り」、「永代通り」、「中央通り」と歩いてきました。

今回は「桜田通り」を歩いています。写真上右は桜田通りの道路名標識（国道1号線）です。桜田通りは千代田区霞ヶ関の内堀通りの桜田門交差点から品川区西五反田一丁目交差点に至る延長約5kmの道で全区間が国道1号線です。徳川幕府により東海道が整備される以前は江戸から西への街道でした。今回は起点の桜田門交差点から慶應義塾大学三田キャンパス東館・東門まで歩きました。

今回は三田二丁目交差点から終点の西五反田一丁目交差点まで歩きます。掲載の写真は人や車の密を避けた時間帯に撮影しました。詳細を知りたい方は各道路のホームページをご覧ください。最寄駅は交通機関を利用した場合の表駅です。

バーチャルウォークの途中経過も報告します。

慶應義塾大学三田キャンパス構内から正門のある桜田通りに抜けられますが、キャンパス構内から入った東館・東門から出て、桜田通りに戻り進むと、次の交差点は三田二丁目交差点です。

[三田二丁目交差点] 港区三田二丁目

最寄駅 都営地下鉄三田線 三田駅

三田二丁目交差点（写真下右）で桜田通り（国道1号線）は直角に曲がります。直進は都道301号線となり札の辻方面に行きます。



左側角は「慶応仲通り商店街」（写真下左）の小道で都営地下鉄三田線の三田駅やJR田町駅に行きます。寅次郎も田町駅からこの道を通って通いました。桜田通りの右側が「慶應義塾大学正門」（写真下右）です。右側の三田の山（丘）にある慶應義塾大学三田キャンパスをぐるりと回りました。



この先から桜田通りの左側はお寺や坂が目立ちます。お寺の掲示板には言葉が書かれてあります。立ち止まって読んだ言葉を紹介します。



写真下左は「安全寺坂」(坂の西に江戸時代の初めに安全寺があった)、写真下右は「蛇坂」(付近の藪から蛇が出たことがあったためと想像される)です。坂には坂の説明の標柱(写真下左右)がありました。



〔荻生徂徠の墓〕 港区三田四丁目

左側の「長松寺」門前に「荻生徂徠(おぎゅうそらい)の墓」の案内(写真下左)があり、中に入ると国指定史跡のお墓(写真下右)がありました。



「荻生徂徠」(1666~1728)は江戸時代中期の儒学者で柳沢吉保に用いられ、將軍徳川綱吉にもしばしば儒学を講義するようになりました。父は綱吉の侍医とのこと。古代の言語・制度文物の研究を重視する古代辞学を大成し、その学問は経学のみでなく江戸後期の政治、経済、文学等に大きな影響を与えました。將軍 徳川吉宗の詰問に応じて享保7年(1722年)「政談」を幕府に献上しています。

〔魚籃坂下交差点〕 港区三田五丁目

最寄駅 都営地下鉄三田線 白金高輪駅

魚籃坂下交差点(写真下左)で都道415号線と交差します。左が「魚籃坂」で坂の説明杭に坂の中腹に「魚籃観音」を安置した寺があると書かれていたので、左折して坂を上りました。途中、左の「大信寺」門前に「石村近江」の墓があるとの説明が書かれた「石碑」(写真下右)がありました。石村近江は日本の三味線を完成させ、三味線の名工・始祖と言われるとのこと。



更に行くと左に「魚籃寺」(写真下左)、「魚籃観音」がある本堂(写真下右)です。





写真左は魚籃寺門前の掲示板の言葉です。

「一切一即 一即一切」
 全体は部分（佛）
 部分（佛）は全体

[白金一丁目交差点] 港区白金一丁目

最寄駅 都営地下鉄三田線 白金高輪駅

白金一丁目交差点で桜田通りは（国道1号線）は左へ進みます。
 直進は都道305号線で恵比寿方面、右は都道415号線で古川橋方面です。



[清正公前交差点] 港区高輪一丁目

最寄駅 都営地下鉄三田線 白金高輪駅

清正公前交差点（写真下左）は直進します。右は目黒通りの起点となります。



写真上右は桜田通りの右側にある「覚林寺」で、「加藤清正（清正公）」が祀られています。寅さん歩 90 江戸・東京の祭—19（江戸らしい祭—8）をご覧ください。右側に「明治学院大学」（写真下左右）があります。ヘボン式ローマ字考案者のヘボンが横浜で開校した「ヘボン塾」が起源で、日本最古のミッションスクールです。寅さん歩 199 東京の学食めぐり—7をご覧ください。



〔増田甲斎の墓〕 港区高輪一丁目

最寄駅 都営地下鉄三田線 高輪台駅



左側にある「源昌寺」（写真下左）の門前に都旧跡「増田甲斎」の墓の説明板がありました。増田甲斎は遠州掛川藩（現静岡県）の藩士で脱藩、仏門に入り、雲水で伊豆に逗留中にロシア船でロシアに渡り、ロシアの外交官になり、幕府の使節が来た時に接遇役を命ぜられました。1873年（明治6年）モスクワに来た岩倉具視に帰国を促され、帰国して隠遁、1885年（明治18年）に亡くなりました。寅次郎、はじめて知った人です。

〔高輪交差点〕 港区高輪二丁目

最寄駅 都営地下鉄三田線 高輪台駅

写真下は高輪交差点で左へ行くと高輪二丁目方面、右へ行くと明治学院大学正門・白金台二丁目方面です。次の高輪台交差点を過ぎると品川区に入ります。左側には寺社が並びます。



写真上右および写真下左は 1137 年（保延元年）創建の「袖ヶ崎神社」です。



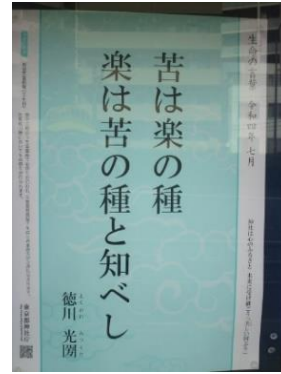
この辺りは島津山で寅さん歩 131 江戸・東京の百名山ー1 をご覧ください。

写真下左右は 1597 年（慶長 2 年）上目黒村に創建、1687 年（貞亨 4 年）この地に遷ってきた日蓮宗の「本立寺」です。



写真右は「雉子神社」入口です。文明年間（1469 年～1487 年）に創建、三代将軍 徳川家光が鷹狩りに来た時に一羽の白雉が社内に飛び込んだのをめでたいと、「雉ノ宮」と命名。明治維新で雉子神社に改称しました。写真下左は社殿です。雉子神社の掲示板の言葉（写真下右）は徳川光圀でした。徳川家とご縁があることが分かりました。





[五反田駅前交差点] 品川区東五反田一丁目

最寄駅 JR 五反田駅

桜田通りは五反田駅のガードをくぐって（写真下右）直進します。



「目黒川」に架かる「目黒大橋」を渡ると目の前が西五反田交差点で桜田通りの終点です。

目黒川の両岸（写真左）には桜が植えられており、春には見事な桜並木が見られます。

[西五反田一丁目交差点] 品川区西五反田一丁目

最寄駅 JR 五反田駅

西五反田一丁目交差点（写真下右）は山手通り（都道 317 号線）と交差します。

左へ行くと大崎方面、右へ行くと目黒方面です。

桜田通りはここが終点で、国道1号線は通称道路名を第二京浜に替えて、馬込・横浜方面に向かいます。

桜田通りは東海道が整備されるまでの西へ向かうメインストリートです。

起点から終点を歩き歴史が詰まった道と感じました。また、各寺社の掲示板の言葉にも興味を持った寅次郎でした。



[バーチャルウォーク途中経過]

八柳修之さん作成の多くのバーチャルウォークコースがFWAホームページ「YR・四季の道」に掲載されています。寅次郎、現在はバーチャルウォーク 松尾芭蕉とあるく「奥の細道」に挑戦しています。

全行程約600里(約2400km)の長旅なので最後までたどり着けるか心配ですが、目標があれば元気に生きられると強がっています。

2022年4月26日、江戸深川(現在の江東区深川)を出発、2022年10月23日尾花沢(現在の山形県尾花沢市)(江戸深川から850km)に到着しました。

八柳さんのコースシートには、次の「奥の細道」本文の評釈と俳句の注釈が掲載されています。

尾花沢で清風という者を尋ねた。かれは裕福な人ではあるが、富者にありがちな心練りのいやらしい人物ではない。都にもたびたび往来しているだけあって、旅のころもわきまえているので、幾日も自分たちをひき留めて、長旅の労のねぎらいに、あれこれともてなしてくれるのであった。

「涼しさを わが宿にして ねまるなり」

(注釈：富貴にして清閑の涼を楽しんでいるあるじ清風の心根のほども偲ば

れるこの座敷の涼しさをわが物顔にあるじの好意にまかせ、のう
のうと安座する次第だ)

「眉掃きを おもかげにして 紅の花」

(注釈:やがては女性の唇をいろどる料となると聞く最上地方特産の紅粉花。
そういえば、その花の形も、女性が化粧に使う小さな刷毛(はけ)、
あの眉かきの形を彷彿と思い浮かべさせる、なまめかしくもやさし
い感じを漂わせて咲いている紅粉の花よ)

毎日の運動不足対策や事情で例会に参加できない場合はマイお散歩コースを見
つけ、その歩いた距離を累計して楽しむバーチャルウォークを始めませんか。
FWAのHP「YR・四季の道」の「バーチャルウォークコーナー」は各コー
スが紹介され、各コースシートが印刷できます。

また「ひとり歩きコーナー」には地図付きの各コースがありますので選んで印
刷して利用ください。

歩く際は密閉・密集・密接の密にならないよう、又それ以外の感染対策を怠ら
ないようにお願いします！

平野 寅次郎 拝